

「市民としての子どもを考える教育の可能性
～スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの幼児教育に注目して～」

2018年10月20日（土）
東京大学 鉄門記念講堂

指定討論

東 重満

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長

美晴幼稚園 園長

テーマに共感

「学びが関係の場であるということ」

4 の最終のスライド

「知識や伝統を伝達すること

そして

子どもたちが主体的に知識を創造する機会を与え（保障）する
（予測 予知できないことへの余地をのこしておくこと）」

スウェーデンとレッキョの（類似性）

- 誇り高き保育実践
- 民主主義のエートス 子どもへの敬意
- 学際的（横断的な）なテーマ／プロジェクト志向のアプローチ
- 創造的で審美的な表現を重要視する

逆教育の概念

- SDGs インクルーシブ教育システム
- 市民としての子どもという観点から、子どもの権利保障、持続可能な開発のための教育(ESD) の重要性
- 伝達⇔創造（改変）

生命尊重 持続可能な社会へ

- 持続可能性 生態系 〉 経済的 社会的
- 自然との共生・死生観（生命観）とどのように向き合うのか？
- ESD SDGs と 子どもの市民意識との関係性について
- 子どもの希望と未来 子ども＝市民としてとらえ育てている
- →ひとりも取り残さない社会へ

問

- 合理的配慮・教育的に特別な支援を要する子どもたちはどのようにアプローチしている？

問

- 2で「家庭的」→「ワークショップ（作業場）」のような環境へ
- 教育的アプローチは保育時間や形態によって変化を求められる？
- プリスクール・クラスの制度化はどのような変化をもたらす？

問

- 保育者・教師の自立性（個性 専門性 嗜好…）はどのようにはぐくまれ保障されているのか？
- 保育者・教員養成や研究者との協働とに関係があるのか？